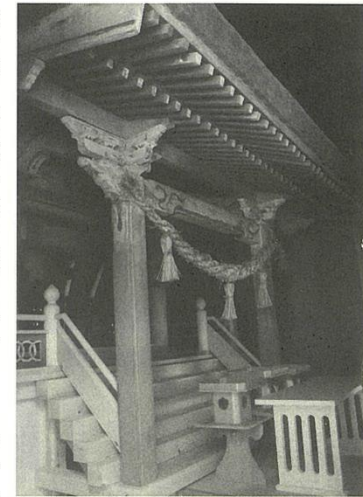


四、淀姫神社（提川総社）

提川 梅岩



本殿内陣

◎祭神 淀姫（与止日女）神

◎例祭 夏季祇園祭（七月十四日）

ほかに元旦祭、田祈禱、願成就など

◎社殿 本殿は小板葺流造で、小規模造ながら高欄

（欄干）を備えた本格的建造物です。全体が素屋（覆殿）で覆われています。

拝殿は瓦葺入母屋造。本殿との間に幣殿（御供物所）があります。

◎由緒 創建年代は次の史料により十六世紀中葉と考えられます。

【弘化四年調 当山派山伏由緒】

『松浦郡武雄内提川村淀姫大明神敷地五反方除、祭祀毎歳十一月十四日武雄領、同十五日蓮池領田八畝廿歩、創建年曆不詳、中野山城守ト申ス者川上村淀姫社ヲ移シ勸請ノ由申伝候事』
これによって中野山城守（一五六三・前述）が提川村に淀姫神社を創建したことが分かります。当時、山城守は桃川諏訪神社神主も兼ね、武雄北部地方（現朝日町中野、川上、若木町一帯）の領主であった中野後藤家の裁量が、同じ武雄内の桃川・提川にも及んでいたことを知ることができま

す。〔歴史編〕

因みに山城守は若木町本部にも淀姫神社を建立して（武雄市史）、篤信の人物であったことがうかがえます。

◎奉納物 記念物

境内正面入口に「元文四年（一七三九）己未仲秋吉日」銘の鳥居が建っています。二七〇年前の貴重なものです。

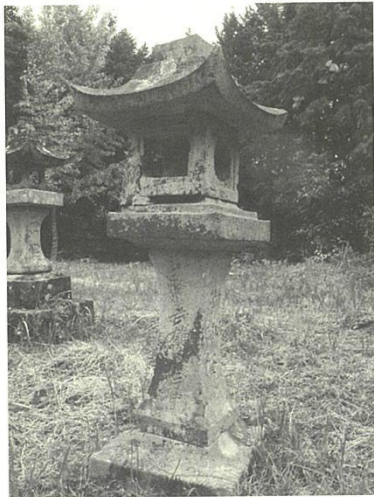
また、境内には「文化十一年（一八一四）戌天霜月奉納武雄内氏子中」銘の燈籠一対があり、当時、社地一帯が武雄領であったことが分かります。

参道の石段（三つの区間）は合計一六七段で明治三十五年当時の提川氏子が一戸あたり一段を寄進したと伝えられています。

拝殿内には「弘化五年戊申（一八四八）酒呑童子絵馬」や「源平船合戦絵馬」（二掛とも平成十六年に再彩色修復）が奉掲され、また格天井には約百枚



元文4年(1739)建立の鳥居



文化11年(1814)奉納・武雄内氏子中

の絵馬が奉納されています。

◎牛洗雨乞祈願の事

往時より提川では早魃かんぼつの時に「牛洗い」雨乞いの行事が行われてきました。前述「当山派山伏由緒」に「達磨松脇ニ牛ノ形石有り往古ヨリ自然早魃ノ砌ミキリハ為雨請右牛石ヲ数石ノ酒ヲ以鯛スルメヲサワラニ而洗申候得者降雨有之不思議ノ靈石ト申伝候事」とあります。記録によると古くは寛政六年（二七九四）や明治六年（一八七三）、昭和十四年九月に実施され、また最近では平成六年八月七日に行われました。



牛に見立てた巨岩を、酒で洗う男性たち 松浦町提川地区

55年ぶり 雨ごいの神事 牛洗い

瑞穂にも水不足が深刻化する 是前夜、昭和十四年に行われ、伊万里市松浦町提川地区で七、八十年ぶりに記録が残っている。日、昭和十四年（西暦一九三九年）の、長谷部地区の牛石末という「牛洗い」の神事「祭りの角、鼻輪など、数々の牛石末が、同地区の大陣甲斐屋、さながら飾られた。雨乞祈願する巨岩牛に見立て、スルメなどの、同地区の村々、最良、結梅、わし代わに、酒で清めという、三基落から、女性約四十人が華

伊万里 巨岩見立て 酒で清め

珍しい雨乞いで、濁水にあまゆ、やかに浮き酒納。続いて、なる実な思いを籠じ、酒を盛勢の牛石に振るれば、細言い姿によと、約一、百部、妙なる祭の男性が、たわし代わりの舞致六年、日限りが舞、酒のスルメで洗い、男、則日後にいの効果もなかつたため、牛石は、近の流婦神社を氏約八十と賑はれる武者の船屋酒で洗、八夜通しの、おこもり、雨乞い、酒めたて、雲がむし頭が、古人の素性は信和心を道楽に開現、降の出たという。以悉の神事した。

1994年(平成6年)8月8日(月曜日) 佐賀新聞